

報事ボール段

段 ボール

(5) 平成25年4月15日(月曜日)

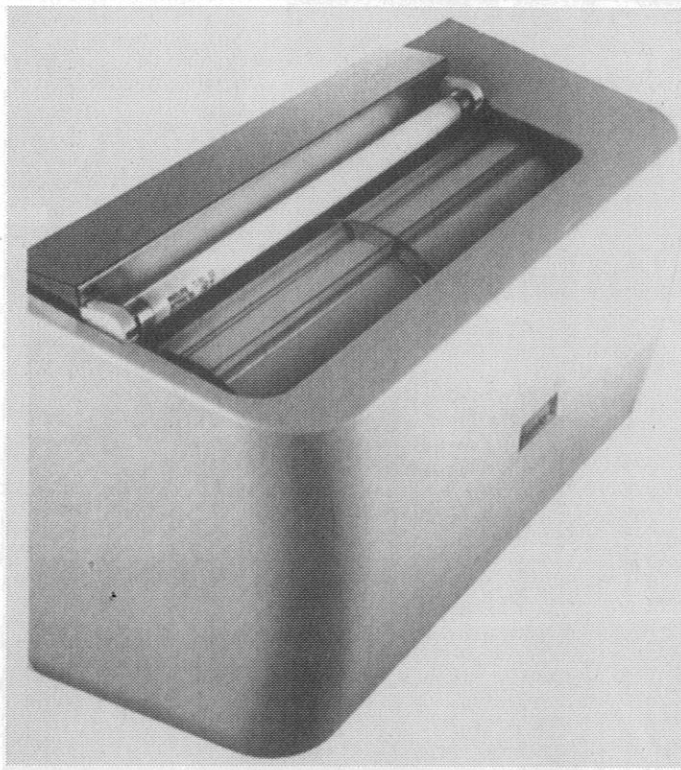
飛来害虫の捕虫システム

遠赤外線です衛生的に照射処理

段ボール封緘中に誤って飛来害虫の封じ込み問題が発生する時期を迎え、G A I A(株)（神奈川県相模原市中央区上溝1297-3、電話042-758-117

14番、坪井担当考)では、その対応策として、新製品「ハエカトル」(遠赤外線連続捕虫処理機II写真)を市販する旨を、このほど、発表した。

同捕虫処理機は、Pen t a i C(株)（東京都大田区)が開発し、G A I A(株)が販売元として扱うもの。飛来害虫を誘虫灯と好適温



度で、誘い込み、遠赤外線です衛生的に照射処理する機器である。特徴は次の3点が挙げられる。
①誘虫力がある。誘虫灯からの光周波と遠赤外線のダブル効果で飛来害虫を誘虫する。②捕虫力がある。回転シンターで誘導、遠赤外線照射により、熱で乾燥処理してダストボックスへ入れる。③特殊加工を施した回転シンターは、汚れが付きにくく衛生的である。捕虫した飛来害虫はダストボックスごと捨てるだけである。なお、カバーを開き、内部清掃やダストボックスの交換ができる。

《同機器の捕虫システムと捕虫メカニズム》
同システムは、▽飛来害虫を誘引する波長の「誘虫灯」▽捕獲した飛来害虫の「熱式不活性化機構」▽取付部背面の加熱を防ぐ「断熱板付き背面板」▽特殊加工を施し、独自の羽根角度の回転シンター▽衛生的な紙製ダストボックス▽静音性・安定性に優れたシンクロナスモーター使用。以上6項目の機構から構成されている。

次に、捕虫のメカニズムは、①誘虫灯の光周波と遠赤外線の好適温度のダブル効果で誘い込まれた飛来害虫は、回転シンターにとまり、羽根にすくわれて、そのまま落ちることなく、背面へ送り込まれていく。②背面に回り込んだ飛来害虫は、遠赤外線照射を受け、衛生的に乾燥処理される。そして飛来することなくダストボックスに落ちる。

《ハエカトルの安全性》
温度上昇を感知すること、シンター回転抵抗を感知するダブルセンサーによって、異常を感知する。

同ハエカトル設置事例としてあげられた事は、飛来害虫の衛生管理と環境対策に役立っていることである。また、飛来害虫対策が必要な施設・薬剤使用ができない施設、また現在、使用の捕虫器では不十分な施設を一部あげると次の通り。

農産物のヒニールハウス、畜産鶏舎、豚舎、食品加工工場、精密機器工場、部品加工工場、コンビニ、スーパーのバックヤード、飲食店舗、レストランの厨房、病院、介護施設、コインランドリー等。

《ハエカトルの仕様》
▽形式：PCH-P(樹脂カバー仕様)、PCH-S(ステンレスカバー仕様)
▽重量：前者が4kg、後者11.5kg
▽電源：両形式ともAC100V240V
▽消費電力：両方とも40W
▽外形寸法：前者W408×D175×H248mm、後者W408×D158×H248mm
▽消耗品：専用ダストボックス、誘虫灯、FL8BL▽オプション：自立スタンド。

(昭和51年3月30日、第三种郵便物認可)
購読料 年間21,000円